

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

平成20年度病害虫発生予察特殊報第3号について

奄美大島のマンゴーにおいて、「マンゴーハフクレタマバエ」(*Procontarinia mangicola* (Shi))の発生が認められ、特殊報第3号を発表したので送付します。

なお、病害虫防除所ホームページ(www.jppn.ne.jp/kagoshima)にも掲載しています。

病害虫発生予察 特殊報第3号

平成21年1月5日
鹿児島県病害虫防除所

1 病害虫名 マンゴーハフクレタマバエ (*Procontarinia mangicola* (Shi))

2 作物名 マンゴー

3 発生確認及び発生状況

平成20年10月に奄美市住用町と宇検村のマンゴーほ場において、葉に水浸状の黄色ないし褐色の斑点被害が認められた。被害葉を保管し、脱出した成熟幼虫から羽化した成虫を農業・食品産業技術総合研究機構果樹研究所の上地 奈美 博士に同定依頼した結果、加害種はマンゴーハフクレタマバエと同定された。

同様の被害は大和村、龍郷町および徳之島のマンゴーほ場でも認められているが、幼虫および成虫は確認されていない。

4 本種の特徴

分布：中国（南部）とグアムに分布する。日本では沖縄県内ほぼ全域で分布が認められている。

形態：体長は成虫が約1.5mm（写真1）、葉から脱出した成熟幼虫が約2mmである（写真2）。

生態：卵期と幼虫の摂食期は合わせて約5日間、成熟幼虫は葉の脱出から蛹化まで2～3日間、土中で蛹化し（写真3）、成虫が羽化するまで約6日間を要する。

現在のところ、マンゴー以外での寄生は確認されていない。また、本種に対して寄生する天敵も確認されていない。

被害：新葉および新梢への加害カ所の多い葉は、早期落下が見られる（写真4）。被害初期は葉に円形で水浸状の黄色斑点を形成し（写真5）、成熟幼虫が脱出した後の被害痕は葉が硬化するにともなって褐色に変わる（写真6）。被害が目立つ園は、剪定があまり行われていない、下草の繁茂した、湿度の比較的高いと思われる園で多いと報告されている。

5 侵入防止および防除対策

本種は地面で蛹化し、苗木や土とともに運ばれるため、新植時に苗木等や土の移動には十分注意する。現在のところ、登録農薬はないので、下草を除去し、新葉または新梢部に被害を認めた場合には、ビニル袋に入れて施設外へ持ち出し、処分することが有効であると考えられる。

6 参考文献

湯川ら（2004）植物防疫 58：216-219

Uechi, N. et al（2002）Appl. Entomol. Zool. 37:589-593

マンゴーの病害虫たち（2002）沖縄県農林水産部

Harris, K.M. and I.H. Schreiner（1992）Bull. Entomol. Res. 82:41-48

【参考資料】



(写真1:成虫)



(写真2:葉から脱出した成熟幼虫)



(写真3:繭から出した蛹)



(写真4:新梢新長期に加害された葉)



(写真5:被害初期)



(写真6:成熟幼虫が脱出した後の被害痕)